

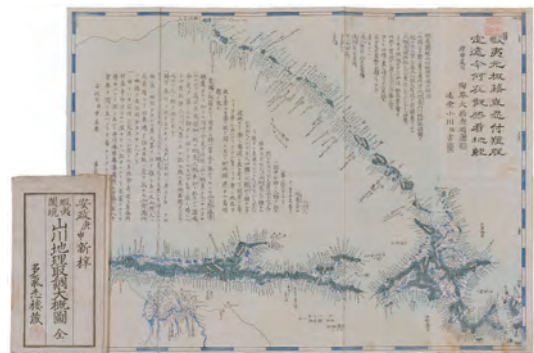


1 丁巳東西蝦夷山川地理取調日誌の内 再篙石狩日誌 巻一〜七完 松浦武四郎自筆本 安政4 5,500,000 円

安政年間、松浦武四郎が箱館奉行の命を受けて蝦夷地を踏査した記録。「竹四郎廻浦日記」全30巻(北海道大学附属図書館所蔵)に続く部分で、所謂「丁巳日誌」全24巻の内、巻四〜十の「石狩川筋探査部分」に当る。本書は箱館奉行への献上本にして本文・挿絵とも全て松浦武四郎の自筆による。7巻7冊、各20〜30丁程度、「多気志楼蔵」用箋、本文12行詰、上段三分の一程の余白欄随所に挿絵や付記がある。「箱館御役所」「北駕文庫」ほか蔵印有。保存は良い。貴重本。



2 蝦夷大略図 松浦武四郎 嘉永3年刊 440,000 円  
木版墨摺、32.5 × 38.5 糎、原装綴付、1 舗。松浦武四郎が版行した最初の蝦夷図である。小図ながら図形は整っており、経緯度も記載。題紙やヤスレ、小虫裏打・少シミ、保存並上。試し摺りらしき紙片(28 × 31 糎)1 枚を添える。稀少図。



3 蝦夷圏境山川地理取調大略図 全 松浦武四郎 安政7年刊 330,000 円  
小型図ながら精密な図。木版彩摺、私刊初摺、38 × 50 糎、原装綴付、元袋付、保存良。



#### 4 東西蝦夷山川地理取調図 本図及び首尾共 全 28 舗揃 松浦武四郎 安政 6～7 3,300,000 円

木版彩刷、2米40×3米60 程（1舗は各51×38 程程度）、原裝題箋付。松浦武四郎の蝦夷地探査を大成する精細図。クナシリ・エトロフを含み、木版の地域図として最大のものである。輪郭は伊能忠敬・間宮林蔵の実測、内陸は武四郎自らの探査による。安政6～7年に涉り刊行され、後に開拓使においても重用されている。本図26舗、首図（概図・案内・土人名簿）、尾図（里数・人別等一覧表）とも全28舗の完揃。僅かな小虫補修有。木箱入、保存良。



#### 5

東西蝦夷山川地理取調紀行 蝦夷日誌 20冊一括  
松浦武四郎 安政7年～明治5年 四、四〇〇、〇〇〇円

松浦武四郎は弘化2年より安政5年迄に6度蝦夷地へ渡航し、全域を隈なく踏査した。その詳細かつ膨大な記録は不滅の業績とされる。掲載品は、その要略として刊行された蝦夷日誌・全22冊の内「東蝦夷日誌」第6～8編を欠く19冊、及び附録「北蝦夷余誌」を加えた20冊である。木版、挿画入り一部彩摺り、へて原裝題箋付、保存良。この日誌の完全揃いは極めて稀れで、戦後古書市場に出現したのは管見では唯一組のみである。



#### 6 松浦武四郎私刊小型本 10種10冊 明15～20 330,000円

「壬申遊記」「癸未溟誌」「癸未溟誌」「甲申小記」「乙酉掌記」「丙戌前誌」「丙戌後記」「木片勸進」「丁亥前記」「丁亥後記」。明治以降、武四郎の関心は天神信仰、巡拝旅行、山岳登山、古物蒐集に向かい、その記録、成果を私家版にまとめた。19種が知られる内の10種。高さ約15 程、原裝、木版こより綴、北海道庁旧蔵印有。概ね保存良。



#### 7 撥雲余興 一・二集 松浦武四郎 明10・15 385,000円

全2帖 木版彩摺 各30丁、36×25 程余の大判。武四郎長年に亘る蒐藏品の解説付き図録集。写生画は主に河鍋暁斎に依り、ほかに青木政好、秦蔵六、柏木政矩ら。彫工・木郎嘉平昌義（四代目）。第二集は見る事少なく、揃いは稀。原裝題箋付、周囲余白・ノド元に僅虫有、保存良好、さらに各集とも元袋付。

8

環海異聞 全15巻(10冊) 揃

仙台漂流・津太夫ら述

文政頃写 八八〇、〇〇〇円

大槻玄沢・志村弘強編。文化元年、露国使節レザノフに伴われ帰国した仙台の漂流民・津太夫ら4名の見聞記録。本写本は内閣文庫本と比較して本文・挿絵とも完全。また挿絵に略画は無い。大本27×185糎。表紙・本文の周閉余白に虫喰い有。裏打補修済。



9

東鞆紀行／同附録 2冊共 間宮林蔵述 村上貞助編 1,650,000円

「東鞆紀行」上・中・下(合冊)、墨付57丁、内着色挿画17面。見開き挿画は袋綴じされている。「文化十一甲戌五月廿八日抄畢淡齋記」の奥書。また斎藤正謙(拙堂)の跋文がある。内閣文庫本に比して挿絵2図を欠く。林蔵及び松田伝十郎による「東鞆紀行附録」は墨付34丁、「からふと嶋見分仕候趣奉申上候」など伝本稀少な関係文書集。



10

ゆめものがたり／松前侯書／魯西亞書翰和解

安政頃写 385,000円

戊戌夢物語(高野長英)及び嘉永6年のロシア使節長崎来航一件に関する写本、墨付28丁、1冊。中でも同年秋、露船が樺太クシユコタンへ来航、上陸し兵營を築いた事件に関する松前藩からの届出は珍しい。巻末に長崎版画「ヲロシヤ人行列之図」2種、「ヲロシヤ船図」、「唐人之図」4種が折込、または貼込まれている。

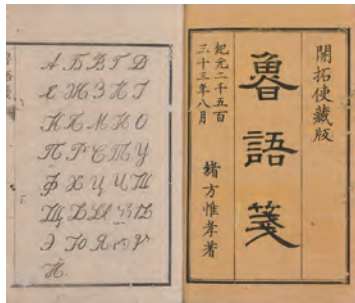


11

魯語箋 卷一 緒方惟孝 開拓使蔵版

明6 二七五、〇〇〇円

作者は緒方洪庵の三男、幕府の遺魯伝習生としてロシアへ留学した人。上段に日本語、下段にロシア語と読み仮名を記す。全2巻の内、巻1のみだが、極稀本である。和装木版。縦18.3×横12糎、128丁、1冊。替表紙、虫喰裏打済。



12

漂流問答記

寛政四年十一月 松前表赤人一件 文政頃写 二五三、〇〇〇円

ラクスマン来航一件の写本中、かなり詳細な書留記

録。大本、墨付58丁。「南部津軽松前三家ヨリ之伺書並附札」37丁、「幸太夫江附添松前ヨリ米候申医師物語之写」ほか8丁、彩色挿絵入。





13 北嶋紀事 卷一～五・附録 編者不明 文政頃写 605,000円

内題「北嶋紀事集成」、目録に依れば全15巻より成る集成。各冊30～40丁程度、巻1～5は「文化四年蝦夷雑事」とし、巻1～3は露寇関連文書、巻4は諸家人数書、箱館役人姓名、殿中御沙汰書、巻5は魯国関係参考文書。函館図書館所蔵本より記述が多い。附録は遠山景晋「未曾有記」上・下、「無名氏説」完の3冊。「未曾有記」は寛政11年蝦夷地エリモ附近までの往還記、83丁。奥書に遠山氏自筆本からの筆写の来歴、文政2年の年記がある上写本。保存良。

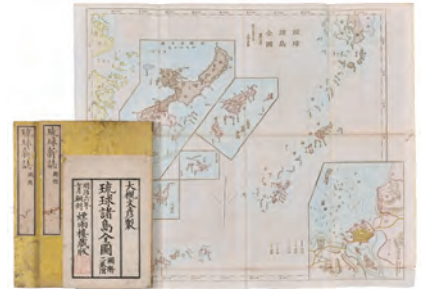


14 満洲魯西亜疆界図 愛我山房  
嘉永6年刊 二八六、〇〇〇円  
木版彩摺 71×44糎、原装題箋付、1舗。カムサツカ・鞆鞆・治海州を含む日本北辺総図。カラフトは大陸続きのまま。魯西亜・鞆鞆番所を印示する。黒川真頼旧蔵、保存良。



15 輿地航海図 武田簡吾訳 安政5年刊 440,000円

杉田玄端開 樹徳堂蔵版 木版筆彩、90×159糎、原装題箋付、1舗。1845年刊イギリス製原図からの翻訳図で、当時最も優れた航海用世界図。小虫裏打、保存良。



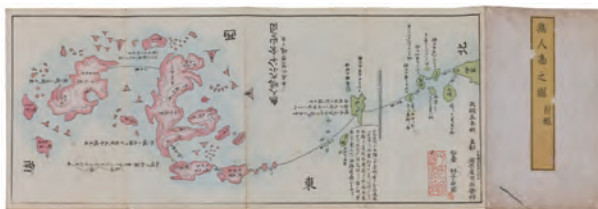
16 琉球新誌 上・下/琉球諸島全図

全 大槻文彦 煙雨楼蔵版 明6 286,000円  
2冊1舗。本冊は和装木版、原装題箋付表紙少汚。附図は銅刻淡彩入39×45.5糎、原装題箋付元袋付。保存良。



17 重訂萬國全図 大学南校蔵版 明4 495,000円

木版彩摺、107.5×189.5糎、原装題箋付、1舗。安政2年刊の山路諧孝による同題図に訂正、色付けを加えた図。表紙に中折れ、傷みがあるが、図に障りは無い。保存並。



19 無人島之図 林子平 「三国通覧図説」附録

天明5年刊 198,000円

木版彩入、27×64.5糎、1舗。独人・クラブポートにより仏訳刊行され、小笠原諸島が国際的に認知された経緯がある。原装題箋付、保存良。



18 ラ・ペルーズ「蝦夷、カムチャッカおよび千島列島図」

ほか2枚組 パリ刊 一七九七年 二七五、〇〇〇円

図面の大きさ各50×69糎 銅版筆彩入。「南日本および琉球図」と合せて2枚揃。正式の表題は「二七九七年に中国と鞆鞆の海域でなされた発見の図」。保存良。



20 蝦夷島奇観 俗式之部・熊祭之部・臘納臍之部・函館人俗図

秦檜丸 文化頃 1,100,000 円

折帖仕立、精写本、4帖。帖の大きさは28×20糎と東博本（秦檜丸自筆本）とほぼ同じ。東博本・全13帖と比較すると、該当する各帖は画面、添文ともほぼ同一にて省略は無い。むしろ東博本には無い描写や着彩、添文に加筆が見られる。添文の筆跡は丁寧だが自筆本とは異なるようである。残存4帖のみなれど、東博本と相前後した時期の筆写と思われる。印消跡、保存概ね良。



21

錦絵「公命蝦夷人種痘之図」

歌川国貞（二代） 江戸末頃刊 六六〇、〇〇〇円

木版彩摺 25×37糎、全1枚。安政4年箱館奉行村垣淡路守の命により、初めて蝦夷人への種痘が桑田立齋らにより実施された。本邦初の集団接種を描いた本図は平沢屏山の原画による。摺・保存良、但し右上隅に僅かの欠損。極希品。



22

アイヌ風俗画「母子散策図」 倉田松濤画 明20頃 四四〇、〇〇〇円  
紙本着彩、132×35糎、一面。画面右下に「写於桑園〇〇之下 松濤外史（印）」と落款入。画面僅かにシミ汚れがある。



23 松前府治図 天明頃写 1,100,000 円

筆彩入、52×151糎（付け足し部分：上部11×20糎、下部28×37糎）、1冊。本図は太田蜀山人の旧蔵、狂歌仲間の平秩東作（天明3、4年松前・江差に逗留）、松前文京（広文ノ藩主・道広弟）らを通じて入手したものか。「南畝文庫」ほか蔵印有。この時期の松前図は他に伝写図を聞かない。



24 大日本國名所 陸奥ノ北國 松前

橋本玉蘭貞秀 明治初 165,000 円  
木版彩摺、25×37糎、1枚。摺り・保存とも良。



25 蝦夷熊祭並人民風俗図画(巻) 寛政10年写 880,000円

通例「蝦夷国風図絵」の名称で知られるアイヌ風俗画卷で、宝暦頃の成立とされる。高さ27糎、長さ13米30糎、着彩1巻。流布本としては絵に省略は無く、描画は丁寧。各画面には古い解説紙片が貼付され、一部やや長い詞文が添えられている。末尾に「寛政十戌午年十一月中旬」の年紀。小虫裏打有、箱入。



26 蝦夷草紙 上・中・下(合巻) 最上徳内

198,000円

墨付98丁。奥書きによれば、享和2年、嘉永6年、安政2年と転写されたもの。近藤重蔵旧蔵の自筆本に比して、大きな省略は無いが、項目の順序に異動があり、文章にも若干の相違が見られる。収録の蝦夷語彙数はほぼ同じである。



27 東遊記 同附録共 平秋東作 寛政10年写 352,000円

著者は江戸時代の狂歌師として著名な人物、天明3年8月に渡道し、江差に越年して見聞したところを記録したもの。当時の松前江差の庶民生活を活写した史料として評価が高い。国会図書館所蔵の自筆本に比して、本文に省略無く、自筆本に無い跋文を有する。巻末「干時寛政十年戌年仲冬戸田氏直孝」の奥書。墨付72丁、小虫裏打、上写本。



28 樺太州川沢図 16舗 礫門甘利後知撰 明8~9写 1,210,000円

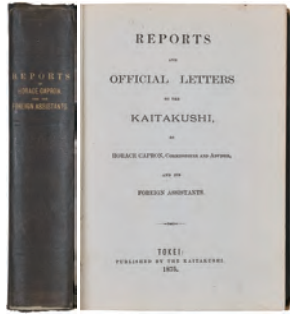
薄葉和紙に精写、淡彩入、各葉60×80糎程度。元袋入、裏面に「…一日借覧松前人岡村某所携図則旧幕史間宮最上二氏之図稿、而某氏之所増加也、明治八年五月」とある。河川中心に漁業、番屋、魯人居宅など日露雑居情況を描く。内2枚に甘利の検べ書き有。亜庭湾岸、東海岸、西海岸あわせて16舗。保存良



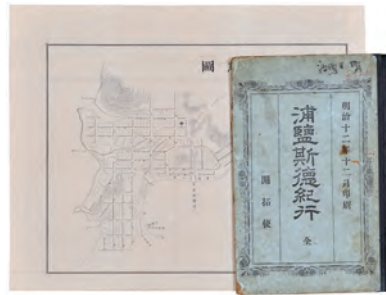
29

北海道千島国択捉島之内「択捉郡全図」  
彦藩・中田貞矩 明4、一、二、〇〇〇〇〇〇円

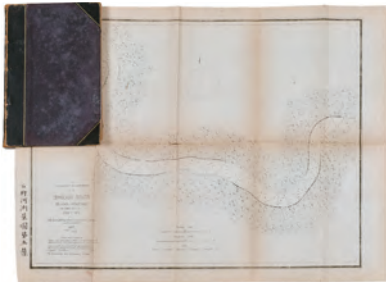
二曲屏風、図面66×170糎。明治政府の北海道開発策により、旧彦根藩は千島国択捉郡開発に着手する。作者は藩の開拓係附属として明治3年8月、同地に着任、実測に基づく地図を作成、さらに地勢風土など各方面を調査した。その結果が本図及び図面左下「開拓の本原」と題する建言書である。千島地図作製史において、これまで言及される事の無かった貴重図。



30 開拓使顧問 **ホラシ・ケプロン** 報文  
 開拓長官・黒田清隆宛 開拓使刊  
 一八七五年 二八六、〇〇〇円  
 英文版初版 Reports and Official Letters of the Kaitakushi by Horace Capron. 開拓使お雇い外国人による最も重要な報告書。黒クロス原装、保存良。



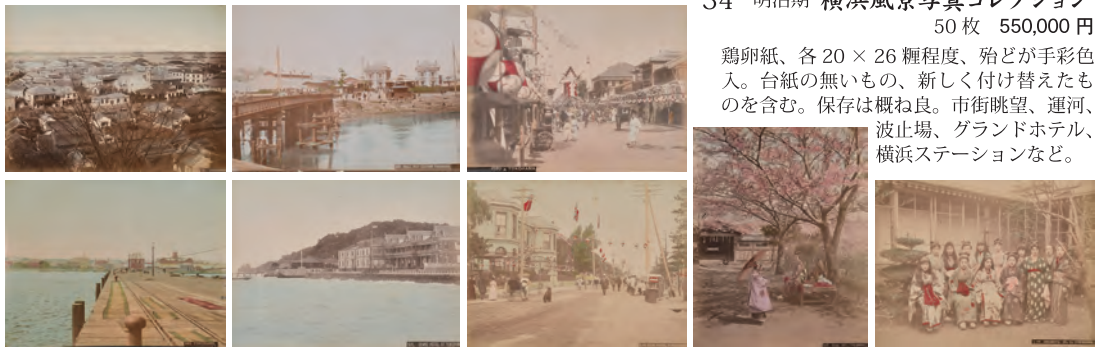
31 清塩斯徳紀行 全 鈴木大亮  
 開拓使刊 明12 二七五、〇〇〇円  
 開拓長官・黒田清隆宛調査復命書。明治11年、北海道産物を装載して出港、浦塩斯徳貿易景況などを調査す。本文143頁、巻頭に折込図2葉入、原装保存良。本書は開拓使刊行書中の稀観本である。



32 英文 **石狩川測量図** 第4〜8図  
 M・S・デイ／荒井郁之助 開拓使地理課  
 石狩川の河口より幌向太に至る水深測量図。石版墨刷 各44×57程程度、第1〜3図欠。ほかB・S・ライマンによる煤田概測之図など7種を含む。綴込み根元部分や畳目欠傷みあれど欠損は無し。12葉折込製本済。



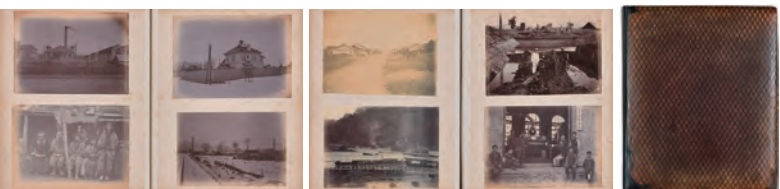
33 明治七年大島圭介報文 **石炭編**  
 本文及び図譜 開拓使刊 明12 一九八、〇〇〇円  
 著者は明治6年、命を受け近代工業に不可欠なる鉄鉱・石炭・山油の採掘・製造状況を米国に視察す。その復命書の石炭編。黒クロス原装、本文141頁、図譜44頁(第1〜78図)、全2冊。保存良稀本。

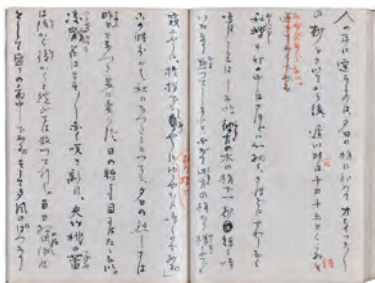


34 明治期 **横浜風景写真コレクション**  
 50枚 550,000円  
 鶏卵紙、各20×26程程度、殆どが手彩色入。台紙の無いもの、新しく付け替えたものを含む。保存は概ね良。市街眺望、運河、波止場、グランドホテル、横浜ステーションなど。



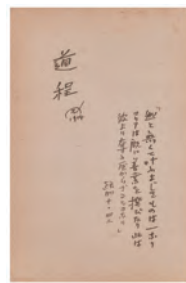
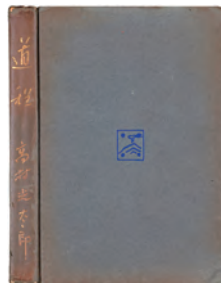
35 明治21〜23年 **札幌市街及近郊風景写真帖** 1,650,000円  
 撮影者は明治21年、設立したばかりの帝国製麻会社へ紡績機械設置のため来道したベルギー人技師。アルバムの大さき30×20種、写真はPOP印画紙。全62頁にキャビネ判各2枚、又は手札判各4枚を貼込、全130枚。殆どの写真の下に鉛筆で撮影日、場所を記載している。





## 36 永井荷風自筆草稿本『蟲の聲』 880,000 円

和綴じ、17×12.5 糎、毛筆書き、墨付 15 丁 (29 頁)、1 冊。布張帙入、題箋も荷風自筆であろう。荷風側近の相磯凌霄および新井覚太郎 (新井鉄工所社長) 旧蔵品。保存良。



## 37 詩集 道程 識語署名入 高村光太郎

抒情詩社 大 3 495,000 円

初版 角背堅表紙、背に薄ヤケあり。カバー欠だが保存良。本書は見返しにペンにて路加伝の一節「然と無くて叶ふまじきものは…」及び「道程 (光) 1914」と出版当時の書入れと署名がある。



## 38

## 『四季』—萩原朔太郎追悼号—掲載草稿群

25 篇一括  
四、〇〇〇、〇〇〇 円

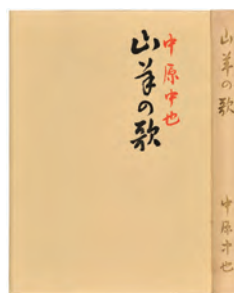
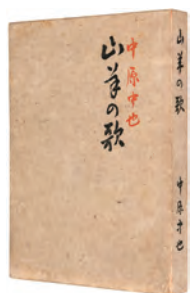
この追悼号 (昭和 17 年 8 月) に掲載された全原稿の内、転載原稿を含む 7 篇を欠くものの、これが現存するほぼ全てであろう。◇萩原朔太郎未定詩稿「洋燈の下」◇無題「ベン書 400 字詰 3 枚完」\*「未定詩稿 (遺稿)」の文字は堀辰雄筆と思われる。代筆稿「妹の手紙 (津久井幸子宛)」6 枚、萩原弥六「兄の事」3 枚、高村光太郎「希代の純粋詩人」2 枚、斎藤茂吉「萩原さんについて」2 枚、前田夕暮「孤独な詩人」10 枚、中野重治「妄想」5 枚、保田與重郎「詩人に現れた世界史の時期」5 枚、東静雄「萩原先生を哭す」6 枚、竹中郁「哀悼」3 枚、田中冬二「八木節の思い出」6 枚、津村信夫「萩原さんの父」4 枚、ほか河井醉茗、川路柳虹、加藤介春、竹村俊郎、多田不二、恩地孝四郎、百田宗治、平木二六、上田静栄、山岸外史、阪本越郎ら。及び堀辰雄「萩原朔太郎年譜」半載 60 枚 / 同「編集後記」6 枚、以上 25 篇。



## 39 詩集 暁と夕の詩 B 版 立原道造 風信子詩社

昭 12 550,000 円

緑色マール表紙、中扉に「室生とみ子様 立原道造」とペン献呈署名入。保存良。



## 40 詩集 山羊の歌 中原中也 文圃堂

昭 9 1,100,000 円

限定 200 部 記番入 函付。本冊・函とも保存状態は極めて良好である。